

第1回「地域フォーラム」概要
 開催テーマ「もっと良くなる奈良を目指して」
 日時 平成26年8月31日(日)13時～15時30分
 会場 大和郡山市商工会館 3階 大会議室

挨拶・資料説明	<p>荒井奈良県知事</p> <hr/> <p>地域フォーラム開催の挨拶 大和郡山・天理・磯城地域の現状などについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県の経済の状況 ・奈良県のくらしの状況 ・奈良県の人口の状況 ・県内市町村の財政状況 ・奈良を元気にする平成26年度の主な取組 など
取組説明 ①	<p>上田大和郡山市長</p> <hr/> <p>大和郡山市の現状と行政の取組について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リメイク大和郡山事業による大和郡山市の財政状況改善の取組(公用車の集中管理、電力調達入札、高齢者施設の民営化、橋梁の維持管理、市内の電灯のLED化など) ・早稲田大学とのファシリティマネジメントの共同研究 ・地元食材を使った中学校給食の開始 など
取組説明 ②	<p>並河天理市長</p> <hr/> <p>天理市の現状と行政の取組について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天理市の人口構成と将来の高齢化問題 ・豊富な歴史文化遺産の可視化不足 ・市内3箇所でのまちづくり協議会の立ち上げ ・発信拠点の整備、販路開拓、商品力の魅力向上などによるものづくりへの支援 ・世界的に活躍するデザイナー佐藤オオキ氏とコラボした天理駅前広場の空間づくり ・2つのR(Re-discover、Re-novation)と1つのL(Link)の取組 ・天理市が目指すまちづくり など
取組説明 ③	<p>竹村川西町長</p> <hr/> <p>川西町の現状と行政の取組について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅地、工業団地、農地がバランスよく配置された町の立地環境と豊富な歴史文化遺産 ・川西文化協会、川西スポーツクラブ、子供見守り隊などを通じた盛んな住民活動 ・インフルエンザなどの接種補助、幼稚園預かり保育などによる子育てしやすい政策の実施 ・人件費、物件費の削減による財政健全化と行政の効率化 ・自主防災組織率100%の達成、総合防災訓練の実施などによる防災活動の推進 など
取組説明 ④	<p>志野三宅町長</p> <hr/> <p>三宅町の現状と行政の取組について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内一小さい面積を活かしたまとまりある町 ・京奈和自動車道三宅インターチェンジ開通によるアクセスの向上と早期開通への期待 ・近鉄石見駅周辺整備と駅員の再配置 ・保育所の待機児童ゼロを目標にした父親、母親が働きやすいまちづくり ・高齢者、妊婦を対象としたタクシーチケットの補助 ・知的障害者の雇用促進 など
取組説明 ⑤	<p>寺田田原本町長</p> <hr/> <p>田原本町の現状と行政の取組について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐古・鍵遺跡史跡公園及び交流施設の整備の推進 ・京奈和自動車道一般道路部分の供用開始を見込んだ都市計画区域の線引き見直し ・県道桜井田原本王寺線沿線への企業誘致の推進 ・田原本駅前周辺の都市計画整備を契機とした商業地としての賑わい復活 など

意見発表 ①	辰巳氏(大和郡山市在住 男性) 安全な農作物の地産地消の促進について
	<p>食と農という視点からの意見を發表します。</p> <p>今年度、国の農業政策で大きな改革が行われ、長年にわたる米の生産調整や直接支払い交付金が5年後を目処に廃止されることになりました。国による農業施策は、TPPなどへの対応策と思われませんが、大農家を対象としたものが多く、県内の小規模農業にはあまりそぐいません。価格面で外国産に対抗するすべはありませんが、収穫後にも殺菌剤、防カビ剤を使用する外国産もあると聞く中、生産者として食の安全という原点に立ち返り、地域の方々に安全な農作物が提供できるよう、地産地消を進めることが非常に大事だと思っています。</p> <p>私はJAならけん大和郡山市経営者クラブに所属し、会長の職に就いていますが、会員の皆様の協力を得ながら、平成18年度より市内小学校給食に安心安全な地場の食材を供給しています。また、その一環として、地元の小学校で小学生と一緒に稲作やサツマイモ、ジャガイモを作り、収穫したものを学校給食で食べてもらっています。</p> <p>その他、学校給食に地元野菜を供給していますが、6月19日の食育の日には地元野菜を使った大和郡山カレーを提供しています。また、年間を通じて少しですが、約19種類の地場の野菜を供給していて、毎月、大和郡山市の地場の野菜を使った食材をメニューに載せて、何を作っているか皆さんにアピールしています。</p> <p>学校給食は大量に作るものなので、生産者として非常に魅力がありますが、その量を大和郡山市の中だけで集めるのは、なかなか難しいです。また、来年から市内の小学校だけでなく、中学校給食も始まるので、単純計算で1.5倍の食材が必要になります。今まではJA大和郡山市経営者クラブだけで食材を集めていましたが、これに伴い、今後は、大和郡山市農業振興協議会という団体に経営者クラブからも参加させてもらい、年齢を問わずもっと広域で新しい生産者を集めていきたいと思っています。</p> <p>また、今年度から学校給食地場食材利用拡大モデル事業が始まっていますが、そこで安定的な生産供給システムの構築に向けて話し合っています。生産者、消費者ともに、地元の安心安全な農作物を「これなら安心して食べられる」と感じられるような意識改革が必要ですし、耕作放棄地の有効利用や土地の集約化を促進できるような施策、新規就農者を増やすための取組、農地や農業施設建築に係る規制緩和も重要だと思っています。</p> <p>例えば、生産者が利用しやすい農産物直売所などを充実させることで、高齢者や女性の農業者が作る少量多品目の生産物についても販売流通システムが確保され、やりがいを感じてもらえとともに、耕作放棄地の抑制などにもつながるのではないかと思います。</p> <p>今後とも奈良県の食と農を守り、地産地消を促進するために、生産者として努力していきますので、行政からもご支援、お力添えをお願いします。</p>

意見発表 ②	別所氏(天理市在住 女性) 奈良の新しい食の土産の発掘、異業種交流を通じた情報共有・発信について
	<p>私は、父が経営する観光農園を発信していく基地にしたいと思い、天理観光農園「カフェわわ」を始めました。カフェ部門はまだ5年目ですが、その中で感じたことを発表します。</p> <p>店は、年間20万人もの観光客が来る日本最古の道、山の辺の道沿いにあります。山の辺の道は、自然の中にあり、朝早くには鳥の音が聞こえ、五感が研ぎ澄まされるようです。</p> <p>店の経営を始めるに当たり、考えたことが3つあります。1つ目は、農園で取れた果実と地場の野菜を奈良に昔からある料理方法で作ること、2つ目は、観光客が喜ぶ奈良の土産を販売すること、3つ目は、ギャラリーと貸しスペースを作り、奈良にゆかりのある雑貨屋や色々な方々の発信やつながりの場として使ってもらおうことです。</p> <p>カフェの名前である「わわ」も、人、自然、食のつながりをサイクルとして大切にしていこうと考え、和んでもらえるように、和みの「わ」をつけ、「わわ」にしました。</p> <p>奈良にある店を山ほど回り、土産を探し回ったことも、奈良の土産をさらに発信したいと思える力になりました。生駒で小さなお皿や奈良の木を使ったイヤリングなどを見つけた時、やはり奈良は良いなと思いました。</p> <p>私の店でも奈良を発信できる土産を頑張って作りたいと考えていた時、天理市の声掛けで、一般社団法人地域づくり支援機構が奈良の新しい食の土産を発掘するために主催する、「奈良発うまいもん選手権」に参加しました。そこでものづくりの勉強から参加し、その結果できたものが奈良のおやつ、「あわこクッキー」です。粟という植物を粉にして練り上げていて、その大会でグランプリを受賞しました。</p> <p>なぜ粟を使ったかという、奈良で詠われた万葉集の中に、「ちはやぶる神の社し無かりせば春日の辺に粟まかましを」という恋の歌があり、昔から粟は会うという言葉に例えられ、会いたい気持ちを表す掛け言葉でした。そんなロマンチックな一面もある粟を、奈良県内や奈良県以外の方にも伝えたいと考えました。</p> <p>さらに、奈良らしさをプラスしたいと考え、奈良のイメージとして、奈良の鹿、大和郡山の金魚、吉野の桜、天理の銀杏、そして、粟の穂の5種類を形づくりました。</p>

このお菓子は、奈良を訪れた方、奈良から他の地域へ移る方にも奈良を身近に感じてもらうために、地域のこだわりの場所や物を形にしました。鹿、金魚、桜は有名ですが、銀杏を手にとった時に湧き出る、「なぜ銀杏？」と不思議に思うことで、天理にも興味を持ってもらいたいと考えています。

現在では、結婚情報誌に掲載してもらったり、東京日本橋にある奈良まほろぼ館でも取り扱ってもらい、県内だけでなく、東京や神奈川などからも引き出物として使ってもらっています。また、2月に実施される「しあわせ回廊なら瑠璃会」では、オフィシャル商品として利用してもらっていて、この時期には県外からの問い合わせも、とても多くなります。

さらに、このクッキーはどのような形も作り出すことができるので、奈良らしければ無限にコラボでき、色々な方々とつながりを深めることができるお菓子です。このようにして、少しでも奈良に来てもらった方に喜ばれ、奈良の土産として持って帰ってもらい、話が膨らんでまた来てもらえたらと考えています。

店以外の活動として、県農村振興課のプロジェクト「山の辺の道地域づくり協議会」にも参加しています。早稲田大学や地域の方々と連携しているもので、山の辺の道の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたいと思って活動しています。この活動に関わっていたおかげか、NHK-BSプレミアム「七つの宝」という番組で山の辺の道を紹介する時に、お勤めの休憩場所として出演しました。昨年、日本で放送された時も反響は大きかったのですが、先日、ハワイの友人からも、「山の辺の道とあなたが映っている」と連絡をもらいました。全米で映るテレビ番組らしく、ハワイで暮らす友人にも、山の辺の道について興味を持ってもらえました。海外からのお客さんがますます増えたらいいと思っています。

天理市から誘われて、素通り観光から立ち寄り観光への転換を目指す天理市文化遺産プロジェクト「天理ぐるぐる」の実行委員としても活動しています。

このプロジェクトには天理市内で40以上の参画者がいます。これまで天理で活動してきても、異業種であることや年齢差もあり、接点がなかった方も多かったですが、天理を良くしたいという考えが一致して、どんどん知恵を出し合い、異業種が関わることで視点が広がってプロジェクトのクオリティーも高くなり、一人一人が観光への関心を深めて、自分のできることを考え出しています。天理が良くなってほしいと思う人はたくさんいますが、一人で取り組むのはとても大変です。しかし、行政側が最初の段階からたくさんの業種を巻き込んでくれたおかげで、お互いが連携して天理を活性化させようとする形ができたと思います。

たくさんの方が協力し、このプロジェクトが愛される存在になれば、天理の観光発信地も増えて、サステナブル(持続可能)につながることで、商品や発信力を強化して天理が強くなり、奈良が良くなることにもつながると考えます。これからも意欲的に地域づくりに参画して人と関わりながら、天理観光農園「カフェわわ」としても、奈良の土産や、より魅力ある観光スポットとしての場所づくりを強化していきたいと思っています。

現在のように、「あわこクッキー」が、テレビや雑誌で県外からも興味を持ってもらっているのは、開発して間もない段階から県や市の行政にPRしてもらい、奈良県内外に広げる機会があったからだと思います。まだ自信のなかった頃に様々なPR活動に参加できたことで、私ももっと頑張ろうという意欲につながりました。個人店舗では到底できない場所での積極的な宣伝のおかげだと思います。別の市町村の友人から、東京への観光プロモーションで、細いガリガリの天理市職員が慣れない柔道着を着て頑張っていたことや、並河市長の熱い思いのこもったプレゼンテーションで天理市の魅力をPRしてもらったことを聞きましたが、天理をPRしようとする私たちには大変心強く思いました。

これからもさらなる発信力の後押しをお願いしたいと思っています。

意見発表 ③	吉岡氏(川西町在住 男性) 「結崎ネブカ」復活プロジェクトによる新たなブランド力の創造について
	<p>「もっと良くなる奈良を目指して」というテーマで、これに役立つ川西町の地域資源のポテンシャルを紹介しします。</p> <p>まず、先ほど川西町長からも紹介がありました、川西町には、島の山古墳、観世流能楽発祥の地を有する面塚、そして太子道の一部である筋違道など、豊富な歴史文化遺産があります。その他、大和郡山市の昭和工業団地に隣接する結崎・唐院工業団地には大きな企業が軒を並べ、製造品出荷額は県内第6位、町村の中では第1位になります。また、地場産業の貝ボタンは、全国トップのシェアを誇っています。そして、今回発表するメインのテーマでもある大和の伝統野菜、結崎ネブカがあります。</p> <p>結崎ネブカについて、名前ぐらいは聞いたことがある人、食べたことがある人、見たことがある人がいると思いますが、この結崎ネブカの知名度が上がったプロセスを簡単に紹介しします。</p> <p>まず、結崎ネブカの復活は、まちおこし事業として、平成14年から3年間、川西町商工会が実施しました。先ほど紹介したように川西町の魅力ある地域資源は色々ありますが、それ以外にもっと魅力ある物が開発できないか、掘り起こせないかということで、様々なキーワードの中からこの結崎ネブカが出てきて、これを復活させ、物語として呼び起こすことになりました。</p> <p>復活のための振興策として、数々の事業を展開していますが、代表的な部分を紹介ししますと、試食懇談会、イメージキャラクター、機関誌の発行があり、その他、一昨年、広陵町にある畿央大学との連携事業で、「結崎ネブカのおいしいレシピ」の開発と品評会を実施しました。</p> <p>結崎ネブカの支援体制としては、まず川西町商工会が、広報、普及、提案、マスコミ対応、引き合いなどを中心に行い、また、JAならけん川西支店に結崎ネブカ生産部会を設置し、生産、出荷、生産者の育成などを行っています。</p> <p>これに対して、奈良県や川西町の行政も、商工会や生産部会、そして結崎ネブカ自体を大いに支援しています。その支援の1つとして、結崎ネブカをいち早く大和の伝統野菜に認定したブランド化があります。また、商工会やJAに結崎ネブカ応援団と名前を付けていますが、食、農、観光などの部分の専門家から色々な情報を提供して支援してもらっています。</p> <p>この結崎ネブカが地域にどのような力となっているか、まず1つ挙げられるのが「食育」です。10年ぐらい前から地元の川西小学校、式下中学校の学校給食に使ってもらっていることで、子供に結崎ネブカを認知してもらい、母親と買い物に行く時に、安い普通のネギを買おうとしたら、「何で結崎ネブカを買わないの?」と言われて、わざわざ50円高い結崎ネブカを買うことになったというエピソードもありました。また、結崎ネブカのイメージキャラクターの「ネッピー」は、町のシンボリックな役割も果たし、イメージアップに一役買っています。</p> <p>今年の2月に県が開催した「第1回奈良あったかもんグランプリ」では、結崎ネブカと県内地鶏である大和肉鶏をコラボした鍋、「結崎ネブカが大和肉鶏を背負っている(しょってる)鍋」を出し、最優秀グランプリを受賞しました。</p> <p>その他、県の施策の一環として、今年6月から東京の築地市場や大田市場へ週3回流通してもらったり、東京日本橋にある奈良まほろば館でも定期的に販売しています。首都圏でのトップセールスなどにより販路の拡大を図っている成果として、大手ホテルチェーン店の鉄板料理店のお勧め食材としてメニューが提供されたり、大手割烹料理店に興味を示してもらっています。奈良まほろば館での売れ行きも非常に好調なようで、青ネギ文化が低い関東圏でも認知度が高まっています。</p> <p>今後の取組として、大相撲の優勝力士への懸賞の「大和ちゃんこ」の具材に加えてもらえるという話や、来年秋に県が都内で開業する直営レストランで使ってもらえるという話も聞いています。</p> <p>このように結崎ネブカの知名度は年々上昇しています。多くのテレビ、雑誌、新聞などで紹介される機会も増えました。</p> <p>近年では、「満点青空レストラン」という全国ネットの番組でも放送されたことで、知名度向上に大きな影響力を発揮しました。結崎ネブカを紹介してもらう際には、必ず「奈良県」、「川西町」、「結崎」という3つのワードが出てきます。これにより製品の認知度を高めるとともに、地域の知名度を向上させる機会、ひいては地域活力の源泉として地域力を底上げする機会となっているように思います。</p> <p>今後、この結崎ネブカの振興、そして、ブランド化を加速させ、「もっと良くなる奈良県」を目指す上での一つのアイテムとして活用し、地域力をさらに底上げしたいと思っています。</p>

意見発表 ④	鈴木氏(三宅町在住 男性) 継続して農業に取り組める環境づくりについて
	<p>私は、三宅町で靴下製造会社を経営しながら、米農家を営んでいます。私たち若手農業の担い手は年々少なくなってきていて、休耕地が増え、田んぼもジャングル化してきています。この現象を進めなくてはならず、景観や治安の面からも何とか守っていかないとはいけません。そのため、奈良県内で現在農業を営んでいる人たちを代表して、継続して農業に取り組める環境づくりをお願いしたいと思います。</p> <p>発表することは、今後私たちの地域で、大和の農産物や田んぼを作る上で、大きな問題となる井堰に関してです。</p> <p>大和平野における利水の問題は、約300年前に遡ります。営農計画として農業用水のため池や吉野川分水計画により国営事業として実施され、昭和62年頃に県営大和平野土地改良事業が完了したと聞いています。</p> <p>三宅町には、飛鳥川、曾我川、寺川の3本の河川に井堰がありますが、30年経過した今では、大規模な改修が必要となるものもあり、町や大字での費用負担も問題となっています。</p> <p>農家の現状として、私の住む三宅町小柳地区に限らず、三宅町全体、また全国的に考えても、少子高齢化で農業人口は激減していて、今後の大きな問題だと考えています。農家収入の実態として、一反当たりの売上以上に、農機具や肥料などの必要経費が大きく上回っているのが現状であり、このことも農業従事者の減少につながっています。</p> <p>休耕助成金も今はなくなりましたが、田んぼを作らない人に助成金を出すより、精一杯農業を残そうと頑張るところに手立てが必要だと考えます。</p> <p>最後に、今後の県内の米や大和の農産物供給のため、河川の肥沃な流域のもとにある井堰を維持するとともに、豊かな自然環境を維持し、若手農業の担い手を育成していくことが、私たちの地域だけでなく、全国的な課題でもあると考え、もっと良くなる奈良を目指しての意見とします。</p>

意見発表 ⑤	梅本氏(田原本町在住 女性) 唐古・鍵遺跡などの歴史遺産の全国への情報発信について
	<p>私は、田原本町観光ボランティアガイドとして田原本町の魅力である多くの遺跡や古い寺、神社などの観光スポットを親切に、丁寧に分かりやすく、楽しく案内しています。</p> <p>最近では、古事記1300年事業をきっかけに、古事記を編纂した太安万侶の故郷の多神社を初め、桃太郎生誕伝承地である法楽寺、そして世阿弥が禅の修行をしたといわれる補巖寺などを訪ねる方が非常に多くなっていて、東京を初め、全国からも来られるようになりました。</p> <p>それらの名所のメインの1つが唐古・鍵遺跡です。田原本、そしてこの中央北和の地域の空は、晴れると非常に青く広がっていて、そこに唐古・鍵遺跡の楼閣がぽつんと1つ立っている写真が唐古・鍵遺跡のパンフレットの表紙にあります。そして平成30年には、唐古・鍵遺跡史跡公園として、新しく生まれ変わる予定で、私たちは非常に楽しみにしています。</p> <p>唐古・鍵遺跡は、全国でも例のないほど大規模な弥生時代の集落の遺跡です。この遺跡は、卑弥呼の里ともいわれる桜井市の纏向遺跡とともに、大和王権が成立していく上でも重要な遺跡で、国の史跡に指定されています。</p> <p>唐古・鍵遺跡といえば、私が小学生の頃は、弥生時代の代表的な遺跡として教科書で学びましたが、最近では、縄文時代の遺跡は青森県の三内丸山遺跡、弥生時代の遺跡の代表は佐賀県の吉野ヶ里遺跡となっています。さらに、奈良県の小学校の修学旅行でも、吉野ヶ里遺跡で古代の勉強をしたということだそうです。</p> <p>これは少し残念です。なぜかという、唐古・鍵遺跡は、弥生時代の遺跡というだけでなく、弥生時代に稲作が行われたということ、アマチュアの考古学者だった森本六爾さんが日本で初めて発表しました。森本さんはアマチュアだったということもあり、学会から見向きもされませんでした。森本さんが亡くなられてわずか10カ月後にもう一度発掘調査が行われまして、「弥生時代に稲あり」という考えが実証され、考古学においても弥生時代の幕明けとなった地なのです。</p> <p>皆さんの足元、ここに唐古・鍵遺跡があります。それをもう一度磨き直して、研ぎ直して、新たに生まれ変わることが田原本町民みんなの希望です。</p> <p>唐古・鍵遺跡は、復元などの具体的な工事が行われていて、今年度は外側の環濠を上手に作っているようで、早く見学に行きたいと思っています。田原本町長からも話がありましたが、その後、国道24号線を挟んだ向かい側に、道の駅や交流施設などが考えられているようです。</p> <p>色々な市長、町長から話がありましたが、活性化には、やはり人の足、人の数が大切です。呼び込むという気持ちだけではなく、私たちが楽しんで作っていくということが、人を呼び込むエネルギーになると思います。子育ても同じで、子供にこういう事を教えよう、こういうふうに使わせようというのではなく、「美味しいよ」、「楽しいよ」ということを教えると、どんどん興味を持ちます。それと同じだと思います。</p> <p>私たちボランティアガイドは、開園する史跡公園と交流施設をスタート拠点にして、まち並み、そして観光資源をアピールしていきたいです。それとともに唐古・鍵遺跡は弥生時代ですが、弥生時代の次は大和王権で桜井市にあります。その後、古墳時代が来て、天理市、そして川西町、三宅町にはたくさんの古墳群があります。その次には、飛鳥時代、奈良時代へ移っていき、そしてそこから24号線を北へ向かって平城宮跡へと、時代はそういうストーリーになっていることを奈良県全体で分かってもらい、体験してもらえることができる大切な資源だと思います。</p> <p>唐古・鍵遺跡の平成30年度開園を心待ちにしています。</p>

先進事例発表	<p>奈良県立大学地域創造学部 麻生教授</p> <p>もっと良くなる奈良を目指して先進事例を紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に見られる現状と地域資源の掘り起こしによる地域活性化 ・地域の商品・サービスのブランド化と地域イメージのブランド化 ・地域ブランド化の先進地紹介 <ul style="list-style-type: none"> 徳島県上勝町：第3セクター「いろどり」が行う葉っぱビジネス 三重県伊賀市：伊賀の里モクモク手づくりファームでの6次産業化 ・着地型観光の先進地紹介 <ul style="list-style-type: none"> 京都：地元業界とタイアップした旅行商品の造成 堺：伝統産業の体験交流型ツアーの企画 滋賀県：湖西、湖北ならではのエコツーリズム など
--------	--

意見①	上田大和郡山市長
	<p>食と農について、少し意見を発表します。</p> <p>もう9年目になりますが、平成18年度から経営者クラブが作る食材を学校給食に定期的に使っています。そこには色々な問題がありました。量の問題、品質を揃えることの問題、それから例えば芋で言えば、付いている泥を誰がぬぐうのかというような具体的な問題などです。</p> <p>来年から中学校給食にも拡大することになり、新しい仕組みを作っていこう、もっと顔が見えるようにして、子供たちにそれこそ本当に物語を食べてもらおうという運動にしていきたい、生きた教材にしていきたいと、そのように思っています。</p> <p>また、市内にあるイオンと連携し、これまで年1回開催していた郡山フェアが、今後は毎月地産地消の日に大和郡山の野菜を売ることになるという協定ができました。特に、山のように並んでいる大和の丸ナスをぜひ味わってほしいと思います。</p> <p>市内にあるハウス食品の工場の方の話によると、今はカレーもレトルトも売れにくくなってきているようです。カレーでも調理が必要だと思われ、逆にレトルトでは手を抜いていると思われるようで、その間の物を作っていこうとのこと。つまり食文化も随分変わってきています。</p> <p>大和郡山市の金魚すくい選手権は随分有名になりました。今年も2日で2万人もの方が訪れ、何と台湾やドイツからも参加申し込みがありました。</p> <p>また、スポーツとして集まるだけでなく、今年から「金魚すくいツーリズム」という形で、市内に泊まってもらうことにもチャレンジしています。もちろん、ホテルも活用し、着地型観光の一つのモデルとしてやっていこうと考えています。金魚を飼う人が少なくなっていることも問題です。金魚を飼うような、ある意味「心の豊かなまちづくり」につなげていかないと金魚は売れないので、そんなことも含めた文化運動をしていきたいと考えます。</p> <p>また、食についても、売ること、ブランド化することも大事ですが、大和郡山市のような地域では、食文化とつないだ文化運動の側面も持つべきであり、それを給食でやっていきたいと思っています。</p> <p>最後に、耕作放棄地についてです。農業委員会の頑張りにより、耕作放棄地を使って、古事記編纂1300年を記念した「こをろこをろ」という山田錦の日本酒を作るようになりました。正確なデータではありませんが、大和郡山市の耕作放棄地が2%を切ったようで、このような取組を継続的にやっていきたいと思っています。</p> <p>色々な意味でコラボし、そして文化運動とつなげた食と農について考えていきたいと思っています。</p>

意見②	並河天理市長
	<p>天理市が大阪や京都、東京などの大都市になることはあり得ません。</p> <p>天理市を活性化していく上で、天理ならではの魅力を発信し、ライフスタイルを提案できるようなまちである必要があると思います。まさに別所さんが言われたように、観光への取組として、ものづくりやストーリーまで乗せたフォトづくりにより、山の辺の道、天理、奈良の魅力や付加価値を上げてもらっています。今、「もの」、「こと」が、「まち」全体につながっているという部分を踏まえて、私たち行政は取り組んでいく必要があります、いくつか果たすべき役割があると思います。</p> <p>一つには、つないでいくということです。関係性であったり、あるいはその情報源であったり、例えば、町家があっても知らない人には貸せないなどといった色々な障害があります。しかし、行政と一緒に関わることで、潤滑油の役割を果たし、新たな出会いの裾野が広がることにもつながります。</p> <p>次に、一緒に作っていくということです。先ほど、工場を移してでも、色々な方とつなぎ合わせて、魅力ある商品と一緒に作り出していこうという話もありました。</p> <p>また、天理駅前も含めた拠点づくりとしての機会もどんどん作っていかないといけないと思っています。例えば、山の辺の道を歩くウォーキングイベントがありましたが、天理市には天理大学があります。大学の学園祭と地域の行事をバラバラにやっていたのでは、相乗効果は出せません。つなぎ合わせて一緒にすることで、色々なイベントが本来果たすべきものを合わせて、新たな機会を創出していくことになります。</p> <p>来月28日に、奈良、そして天理の農産物を発信する機会として、県が天理駅前広場でマルシェを開催します。これは秋の期間ずっと続きますので、新たな機会の創出であるとともに、今後の天理の活性化の道筋を温める素晴らしい機会になるのではないかと考えています。</p> <p>最後に、一緒に裾野を広めるということで、給食の話も出ていましたが、子供が自分の原体験として、その地域の素晴らしい魅力に触れることに意義があるのではないかと思います。</p> <p>市内、市外の皆さんが共感できる物語を一緒に作っていかないといけません。従来のように投資したものに對して補助したり、あるいは稼ぐ部分に関して、「ここは営利なので公がやるべきではない」などと言わず、一線を越えないといけない要素もたくさんあると思います。公というものが従来の殻にとらわれることなく、まちと一緒に盛り上げていく、まさに、「もの」、「こと」、「まち」というものを作ってもらえる方と一緒にやっていくということです。どんどん稼いでもらってこそ、私たちの公金も成り立ちます。</p> <p>「ここまでが公で、ここまでは皆さんでやってください、という今までどおりのやり方で変わる必要はないのでは？」という声を聞くこともあります。若い方がまちからどんどん減っていくこれからの歪な人口構造の中、それは成立しないということ認識したいと思います。今までどおりのやり方は、もはや持続可能なやり方ではありません。力を出していただいている市内の皆さんと力を合わせながら、異次元の対応をしていきたいと思っています。</p>

意見③	竹村川西町長
	<p>先ほど話したとおり、川西町は「住みよい町だ」と誇れる町と住民の皆さんから聞いていますし、そのように自負しています。しかし、行政も必死に活動していますが、残念ながら、移り住む人は少ないです。やはり、川西町の知名度が足りないと考えています。</p> <p>ちなみに、県外の方に、川西町がどこにあるのか聞かれると、「天理市の隣」や「大和郡山市の南」、あるいは「斑鳩町のちょっと先」のように言うのが現状です。</p> <p>そんな中、結崎ネブカのように地域で眠っているもの、見過ごされがちなものを、一から立ち上げてブランド化されたことは本当にありがたいと思っています。しかも行政主導ではなく、住民主導で行われたことを大変誇りに思っています。</p> <p>現在、生産面での課題もありますが、今後も川西町の知名度を一緒に上げ、地域を盛り上げていくために、スクラムを組んでやっていきたいと思っています。</p>

意見④	志野三宅町長
	<p>休耕田が増えることで地域の景観や治安が悪くなる、農業の売上より必要経費が上回っているという話がありました。確かに休耕田が増えると、田んぼがジャングル化し、治安の悪化につながっているのが現状で、道路の見通しも悪くなり、交通事故の誘発にもつながっていますし、向こう側が見えなくなって、その影の部分で犯罪が発生する恐れもあります。</p> <p>このような中、今年度、三宅町では、県の力を借りて農業特産品を検討しています。他の市町村と比べ、三宅町の農業振興の取組は、県内で一番遅いかもかもしれません。しかし、逆に成功事例や失敗事例などたくさんの情報がありますので、この情報をフルに活用して、本当に良い特産品を三宅町内で作っていきたくて考えています。</p> <p>知事はよく、「付加価値の付いた非常に高い物を市場で売っていかなくてはいけない。これからはそんな農業をしなくてはいけない。」と言われます。それをよく頭に入れて、これから三宅町の農業特産品を作っていきますので、ご理解、ご期待いただきたいと思います。</p> <p>もう一点、持続可能な環境づくり、川にあるダム、井堰についての問題です。鈴木さんが言われるように、新設に対する補助と比べ、設備の改修、修繕に対する補助は非常に少なく、頭を抱えています。</p> <p>冒頭でも話しましたが、コンパクトシティという観点から言うと、例えばこれらの設備を修繕する時に、そのエリアを少し広げて、同じような機能を持ったものが存在しないか、1つを廃止、もう1つを利用して、それらの地域の農業に活用できないかということを考えるのも1つではないかと思えます。</p> <p>当然、残す施設も老朽化が進んでいるので、その施設の長寿命化や新しくする経費は必要となりますが、今後、そのエリアの複数の施設を維持するよりも集約することで、長年の維持経費がかなり削減できるのではないかと考えます。</p> <p>もう1点は、地元負担が少なくなるよう、国や県の補助率をどのようにしていくかだと思います。</p> <p>小柳のゴムの井堰の場合、ゴムの交換だけで1億円の費用が必要です。今の制度では、国が50%、県が5%、地元は45%の負担となり、金額で言うと小柳地区は4,500万円が必要です。このような額を出しながら農業ができるかどうか、また、現在やる気を出している方々が、この金を出すことでやる気がそがれないかどうか、これから考えていく必要があると思いますので、町としても県としっかりと相談して取り組んでいきたいと思えます。</p>

意見⑤	寺田田原本町長
	<p>観光ボランティアガイドをしている梅本さんは、田原本町の歴史、文化、魅力について非常に詳しいです。先ほどの話にもありましたが、世阿弥の補巖寺や太安万侶の多神社、そして桃太郎の法楽寺など、田原本町内には数多くの遺跡や史跡があります。しかし、なかなか情報発信できていないのが実情で、その理由を考えると、私も含めて町民が、町の歴史や文化を知らないということです。</p> <p>本来であれば、観光に来た人に対して、住民の方々から、こういう魅力があると伝えることができれば、一番の情報発信になると思います。今さら大人に勉強してもらうのは厳しいので、子供をターゲットにしようと考え、「ふるさとカルタ」というものを作り、小学校に入る1年生全員に配りました。家で遊びながら、自分で楽しみながら、町の歴史や文化を知ってもらいたいと思っています。小学生が家でカルタをしながら覚えていると、親も一緒にそのカルタを見て楽しむようになり、自分が楽しむことで町の歴史や文化を知って、それにより発信できるのではないかと考えています。</p> <p>また、唐古・鍵遺跡史跡公園については、平成29年度内に必ず完成させ、平成30年4月1日にはオープンしたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。</p> <p>史跡公園の中には、遺構展示、復元整備ゾーン、体験学習ゾーン、弥生の林・草地ゾーン、多重環濠ゾーンなど、色々なゾーンを用意しています。また、国道を挟んだ反対側には、体験学習ができるような交流施設を用意し、小学生、中学生が卒業旅行あるいは遠足で来た時に、4クラスでも5クラスでも同時に楽しんでもらえるような施設を目指しています。</p> <p>また、道の駅の中に展望台を作り、青垣を見てもらいたいと思っています。ヤマトタケルノミコトが生きていた時に、「倭は国のまほろば たたなづく青垣 山ごもれる 倭しうるはし」という歌を詠みました。その頃と比べて、平地は比べようもない程変化していると思います。しかし、ヤマトタケルが息絶えた、そして見ていたその青垣の山々は、今でもその頃と全く変わっていない状況を目にしてみることができそうですので、その青垣の山々を見るためにも展望台を作りたいと考えています。</p> <p>もう1点、田原本の遺跡や史跡だけではメイン料理にはならないと思います。それだけで1日楽しんでもらえるようなルートは田原本だけで作ることはできません。地域が一緒になって観光ルート、基点やポイントではなく、ルートとして、線として整備することで、多くの観光客にも来てもらえるのではないかと考えています。このように市、町が集まったセミナーという場合は、最高の機会だと思えますので、ぜひ協力して観光ルートの整備をしていきたいと思えます。</p>

意見⑥ 荒井奈良県知事

奈良県は全国でも珍しく、5年以上ほぼ毎月市町村と勉強会を続けています。それが今年の国会の参議院総務委員会で取り上げられ、私が陳述に行きました。奈良県市町村長サミットは全市町村が集まり、共通のテーマで行いますが、今日はこの地域のことだけなので、色々なアイデアが出て、非常に啓発されました。

発表いただいた意見を4つに分類すると、食と農の関係、農業、観光、そしてまちづくりになると思います。

食と農の関係では、奈良県の象徴として食品加工業が全国トップクラスである一方、農業は全国最下位クラスで、農業産出額は下から3番目です。奈良県の食品加工業は、外から来た食材を奈良で加工して外に売っているの、奈良の食材を使ってもらうことを大きなテーマとして捉えています。

生産された野菜はそのまま食べられるのではなく、半分以上、例えば漬け物などの食品加工業に回ります。京都はそのようなことがうまいのですが、奈良では奈良漬けに続く漬け物がありません。

食品加工業と地元農産物との連結、接続が、奈良の大きな課題で、これは林業も同じです。五條市に朝日ウッドテックという日本一のフローリング製造メーカーができましたが、そこでは吉野材を全然使わず、ニューヨークから船で運んできています。五條で工場を作ってもらえるのはありがたいのですが、そこで使われている素材と製造・販売が一貫していないことが分かってきました。

もう一つ、結崎ネブカの話がありました。奈良は、食材が豊富なのに、レストランのシェフに直結していないことから、桜井に「なら食と農の魅力創造国際大学校」という世界トップクラスのシェフの学校を作ろうと、指定管理者を公募しました。奈良の「ぐるっと山の辺の道」がよく見えるところに公設のオーベルジュレストランを作り、民間の人に働いてもらい、とりわけ奈良の女性がシェフになり、経営者になるイメージを持っています。

それから直売所についてです。「大都市に近いのに野菜をあまり作らない県だ」と、冷やかされていますが、耳成に直売所ができ、安くて質も良いので、大阪からもレストランのオーナーがひそかに買いに来ているようです。しかし量が少ないです。

東京の奈良まほろば館で大和野菜を売ると、近所の人買いに来て、朝から飛ぶように売れていきます。プロモーションすると、もっと売れます。イチヂクもすごい。柿も人気があるので、今年の9月に、新宿高島屋で、ハッピーを着て楊枝に刺した柿を配って食べてもらおうと思っていて、その時に、2週間ほど奈良の食材を使った食のフェアをしてもらいます。結崎ネブカも当然出ます。また、この前、一流のシェフのいるレストランで、大和づくしのメニューを発表しましたが、なかなかのものでした。それらを東京でブランド化するよう目指しています。

日本の中で値段を決めるのは東京です。評価を決めるのも東京です。関西の人は余り見ませんが、東北の人も関東の人もみんな東京を見ます。東京で奈良のブランドの名前が随分出ていると、日光東照宮の人が言うぐらいになってきました。そのようなブランド化と、東京で奈良県が場所を借りてサブリースする直営店をやります。東京で奈良のレストランと標榜するレストランが今は1つもありませんが、この前、場所を決めたので、これから誰がやるか決めていきます。

今度の大相撲初場所奈良県知事表彰を行います。その時に大和肉鶏や結崎ネブカも入った「ちゃんこ大和づくし」を出し、評判がよければ別仕立てで売れないかと考えています。

2つめの農業ですが、農業は輸出産業です。奈良県は神奈川県と耕作面積がほぼ同じですが、奈良県の農業産出額は437億円しかありません。神奈川県は805億円もあります。その差は、野菜の生産量と畜産です。宮崎県も値段が高いのは畜産です。

奈良の米は質が良く、この辺りの地域も米が多いので、耕作放棄地は少ないです。しかし、高く売れるのは野菜や畜産というのが今の主流ですので、これから転換されるかどうか地域の大問題だと思います。TPPIに参加しても、農業は輸出産業であり、加工もしやすく、例えば、鶏なら加工して外に出せるので、そちらに農業を転換するかどうかというのが大きな問題です。

これは井堰問題にもつながります。どのような農業をしていくのかよく聞いて、奈良の農業をどのようにするか考えなければいけません。米も立派な農業ですが、生産性が低く、売上がそれほど伸びません。

農地の問題は大事です。農地をどうするかですが、後継者がいなくなる中、米を作りこ帰るのは嫌だという人も多いです。専業農家でも色々な付加価値があればいいので、宮崎県でも青森県、山形県でも頑張っているようです。

麻生先生の話にもありましたが、農家の若手経営者が出てくる時に、6次産業化で食と農とレストランを一緒にしたり、加工食品で全部作ったり、野菜も果物も作ったりというように転換できるかどうか、奈良の農業の大きなポイントだと思います。それが、この大和平野中部でできるかどうかです。

また、先ほども話に出ましたが、贈答品に結崎ネブカや大和肉鶏などを組み合わせて、大和ちゃんこの詰め合わせができないかと思えます。組み合わせるのに手間がかかりますが、各地ではそのような手間をどんどんかけているので、ここで差が出てきます。

鈴木さんが言われた井堰も大事な話だと思います。奈良県に井堰は1,300もあり、ゴムの井堰は130ほどありますが、ゴム井堰のゴムを替えるだけで1億円かかるということでした。30年前、あの辺りは内水被害が多かったので、地元負担の少ない治水事業としてすることになりました。治水と利水では補助率が随分違います。治水だと公共事業になり、手厚く補助ができます。利水のための井堰は農業をするためのものなので、地元負担が多くなります。これは農業の補助金の特徴です。

それだけのお金をかけて農業をするのか、どのような農業をするのかということは、すごく知恵のいるところ。先ほどの三宅町長の話にもありましたが、1,300ある井堰をそのまま改修するのか、どれを残してどれを使うのか、どういう農業をするのか考えながらしていきたいと思えます。

水利施設の調査費用は全て国が出しますが、なかなか調査も進んでいません。辰巳さんのように農業を頑張る方ばかりではないので、この場所はあるのかいないのか、後継者のことを考えると、負担してまで田んぼにするのがいいかどうか、などと迷ってしまうので、地域としてどうするかということが大きな問題だと考え、県も積極的に取り組んでいきたいと思っています。

三つ目は観光です。先週、東京で大古事記展をPRしましたが、奈良のブランドは東京ではすぐく、650人の会場に関東一円から2,500人もの申込がありました。

10月から県立美術館で行う大古事記展では、七支刀という超国宝級の刀が出ます。七支刀は、田原本町長が言われた、「奈良の物の値打ちを奈良の人は知らない」という1つの例かもしれません。韓国ではものすごい人気があり、韓国の漢城百済博物館の入り口に大きな写真が貼っていて、実物は天理の石上神宮にあります。

天皇陛下のご行幸がこの秋にあり、大古事記展も見させていただきますが、飛鳥で出た「天皇」という最古の木簡とこの七支刀は奈良の誇りですので、天皇陛下によく見ていただきたいと思います。

このように大古事記展を発信して奈良を売り出そうと思っています。

また、森本六爾さんの話もありましたが、森本さんは奈良の、日本の文化学というか、今流行りの文化資源学の創設者です。

先ほど話した、野菜や農業のブランド化にも物語がいろいろあります。京都はうまいけど、奈良は何を言っているか分からないので、物語を付けて売らないといけません。物語があるのに意識せず、苦手だったのでこなかったと思います。

この夏、語り部をつけて熊野古道を歩きましたが、とても良かったです。太子道や山の辺の道でも「語り部が付いて一緒に歩きましょう」というようなことをしてもいいのではないかと思います。

山の辺の道については、今の山の辺の道だけでなく、「ぐるっと山の辺の道」を作ろうと思っています。奈良の山麓をずっと回るような山の辺の道、それと「ぐるっと自転車道」、それから「京奈和自転車道」、京都の嵐山から木津川、吉野川、紀ノ川に行って和歌山まで行ける大自転車道を作れないかと思っています。

また、奈良は横に行くところが多く、自転車のサイクリングがとても楽しみにされているので、歩くのとサイクリングを1つのメッカにできないかと思っています。

山の辺の道はブランド化した大変良い道ですが、道標を何メートルおきかに置いて、積極的に道案内したいです。また、「北山の辺の道」について、奈良の白毫寺からきちんとなぎ、そこから飛鳥へ行って回るようにして、その拠点、拠点に、地域振興、観光の展開、語り部の展開をしてもらうようなコンセプトで考え、行政が場所づくりをしないとイケないと思います。

最後に、まちづくりですが、天理市長が天理駅前のお話をされました。天理と大和郡山の駅前是对照的です。天理の駅前は何もなく、大和郡山はごちゃごちゃとしているという印象で、広いところでは何かできますが、逆にごちゃごちゃとしているとなかなか難しいと思います。

「中央北和の空は広い」と梅本さんが言われましたが、これも売りというか、おもしろい空間で、大和平野は広いと感じています。

川西町長は川西の場所が知られていないと言われましたが、「川の西」ですし、「川と言えば大和川」ですので、結崎ネブカもブランド化したいし、川西もブランド化したいと思います。

それから、これからのまちづくりとして、高齢者のためのまちづくり、働きやすく子育てしやすいまちづくり、訪れやすいまちづくりは大きな課題ですが、楽しみな課題です。これをきっかけに、ぜひ県も一緒に頑張りたいと思います。

意見⑦	辰巳氏(大和郡山市在住 男性)
	<p>毎月、大和郡山の日ということで、市内のイオンで野菜を売っています。いつも農産物品評会は「PICAメッセ大和郡山」(Industry(工業)、Commerce(商業)、Agriculture(農業)をPromote(振興)するためのメッセ(見本市))でやっていますが、今年はイオンとコラボをさせてもらい、そのブースですることになると思います。それに合わせて大和郡山の日もプラスして、地元の野菜も売る形になると思いますので、またよろしくお願いします。</p> <p>また、奈良県の農業は、米が主体で野菜や牛肉などが少なく、農業の売上高は伸び悩んでいます。実際のところ、私が作っているのは花ですが、野菜に転換しようとする、売上を伸ばすために大型化していかないといけません。しかし、その時に規制がかなりかかってきます。特に野菜などの施設、建物を建てる時に、大きさや規格の規制がかなりきついです。自己資金でできればいいですが、お金を借りる時にその規制がかかり、なかなか大型のハウスが作れません。また、建てる時には、建築基準法があって規制の範囲以上の建物がなかなか建てられませんので、今後、米中心の農業から野菜などに変えるようになれば、建物の規制を緩和してもらい、建てやすい環境と、建てるにあたっての土地の集約化、流動化を一緒にお願いしたい思います。</p>
意見⑧	別所氏(天理市在住 女性)
	<p>天理市内には山の辺の道や石上神宮など、年間20万人も訪れてもらえる観光資源がたくさんあります。私自身も地域のブランド化を意識して、最も魅力ある山の辺の道について、これからも県や市と連携して取り組んでいきたいとします。</p>
意見⑨	吉岡氏(川西町在住 男性)
	<p>本日は結崎ネブカの明るい部分を発表しました。しかし、ご承知のとおり、非常に苦労している部分もあります。これまでも多大なご支援をいただいているところですが、生産、流通、そして担い手育成といった非常に弱い部分に対しても、なお一層ご支援いただけたらと思います。</p>
意見⑩	鈴木氏(三宅町在住 男性)
	<p>私の隣の土地は休耕地で、草の高さは3メートル、木は直径20センチ、高さは20メートルもあります。数年でそこまでにはなりません、放っておくと手をつけられなくなることを目の当たりにしていますので、この機会に発表しました。</p> <p>また、ご意見があった受益地へ水を引き込むルート、井堰が果たす役割は少し違うと思います。昔は、もっと多くの井堰が川にありましたが、統合、大型化され、今の井堰に集約されていると思います。これ以上の集約は厳しいので、井堰を修理していく中で、地元負担が極力少なくなるような方法をお願いします。</p>
意見⑪	梅本氏(田原本町在住 女性)
	<p>知事からも話がありましたが、語り部について、山の辺の道、太子道、下ツ道など唐古・鍵遺跡の交流施設を拠点に、ガイドと連携して、バスに乗り、語り継ぐこと、そしてまた天理、桜井などのガイドとの連携も必要だと思います。</p> <p>唐古・鍵遺跡の開園が本当に待ち遠しいです。また、地域との連携は私たちも非常に楽しみなので、楽しく、そしてがっつりとスクラムを組みたいです。知事もぜひお願いします。</p>

意見⑫	上田大和郡山市長
<p>大和郡山市では、城の天守台の修復事業に取りかかっている、素晴らしい石垣ができてきていますし、景観をもう一度復元するため、県の補助を受けて、東側の樹木の伐採にもこれから取りかかっています。おそらく、大和平野が一望に見渡せると思います。田原本町でも展望施設を作るということです。ぜひコラボをしていきたいと思います。奈良県は、「古代以降、何も文化がない」と外から見られている感じがしてなりません。新聞でも古代のことは取り上げますが、つながる可能性が一杯あると思いますので、縦横のつながりをもっと作っていきましょう。</p> <p>今、「橘プロジェクト」として、中ツ道、橘寺辺りでつながりますが、そこから色々なものを生み出そうというプロジェクトが始動しました。経済産業省が応援していますが、いくらでもつながる可能性があると思うつくづく感じました。</p> <p>もう1つ、魅力の再発見がキーワードになると思います。外からしか見えない魅力があるようで、「BE・LOVE」というコミック雑誌に、「すくってごらん」という大和郡山の地域漫画ができました。いずれ映画化したいという夢を持っていて、外から見た魅力を私たちが受けとめなければいけないと思っています。</p>	

意見⑬	並河天理市長
<p>繰り返しになりますが、天理には素晴らしい魅力が一杯あります。まだ、隠れている部分を再発見し、別所さんをはじめ、まちの皆さんとしっかりとつないでいきます。</p> <p>今日は平成29年4月オープン予定の天理駅前のデザインを中心に話をしましたが、これはあくまで一石であり、そこからどのように裾野を広げていくかということを考えています。市全体につなげていかないといけません。新しい部分だけじゃなく、既存の商店の活性化とも合わせていきたいと考えています。</p> <p>天理市も財政的に厳しい面があり、可もなく不可もなくというものや、目的意識がはっきりしない政策は今後行わないつもりです。</p> <p>市民病院は今度、メディカルセンターになりますが、包括ケアの中でどのような役割を果たしていくのか、あるいは空いている施設を子育て支援に活用するなど、どういう形で充実させていくのか、それぞれの機能をはっきりさせながら有機的に結びつけ、行政だけでなくまちの皆さんとも一緒にやっていく、そのような形で進めていきたいと思っています。</p> <p>引き続き、皆さん、そして県の手助けをお願いします。</p>	

意見⑭	竹村川西町長
<p>吉岡さんが地域ブランドとして結崎ネブカを取り上げて話をされましたが、まだまだ川西町に眠っているブランド、見過ごされているブランドがあると思います。</p> <p>これからも住民の皆さんと一緒に発見、発掘して、地域を盛り上げていきたいと思っています。</p>	

意見⑮	志野三宅町長
<p>これから、私たち三宅町の力を発揮する時代が来るのではないかと考えています。</p> <p>今、県の協力を得て川西町長の旗振りのもと、磯城郡の水道施設を1つにまとめられないかという話を進めています。</p> <p>また、先ほど、田原本町長が観光面で言われたように、これからは横の連携を大事にしたまちづくりが重要となります。三宅町も何か1つ旗振り役で頑張れるように取り組んでいきますので、よろしくお願いします。</p>	

意見⑯	寺田田原本町長
<p>梅本さんからガイドの連携、地域の連携という話がありましたが、やはり地域としてどのように連携していくかということが大切だと思います。</p> <p>先ほども申しましたが、観光ルートをどのように開発していくかという点でも、ぜひスクラムを組んでこれからやっていきたいと思っています。各観光地の整備は市町村独自の仕事であり、これを整備することにより観光ルートが開発されますが、先ほどの知事の話にもあるように、ストーリー性、物語を付けることで、ルートとして完成するのではないかと考えていますので、ぜひ5市町で頑張っていきたいと思っています。</p>	

総括	奈良県立大学地域創造学部 麻生教授
	<p>今回の1つのキーワードは地域の掘り起こし、または地域資源の見直しだと思います。</p> <p>奈良には素晴らしい資源がたくさんありますが、その素晴らしさを地元の人たちは当たり前とつまっているのではないのでしょうか。そういう意識があるから、なかなか外部に伝えきれていないのではないのでしょうか。</p> <p>私たち自身が自分のいる地域や県内の本当に素晴らしい遺産を意識し、今後はそれらにどのような付加価値を付けるかです。そこには加工や6次産業化という話もあるかもしれませんが、また、先ほどの知事の話にもあるように、そこに物語性を付けるという付加価値もあるかもしれません。様々なやり方があると思います。私たちが持つ資源をいかに持続的に将来世代につなげていくかということも意識していかなければいけないと思います。</p> <p>100年前、フェノロサというアメリカの学者が奈良に来て講演しましたが、その時、「奈良にはこれだけたくさんの素晴らしいものがある。ぜひ奈良にいる住民の方々、それを意識して、守り抜いてくれ。」と話しています。まさに今もその考えは変わらないと思います。</p> <p>この地域には素晴らしい資源が数多くあり、それらを活かしていくことで、より住みやすい、より暮らしやすい奈良になっていくのではないかと思います。</p>

挨拶	荒井奈良県知事
	<p>地域のことに集中してどうするか議論していれば、必ず良くなります。やはり努力しない地域は良くなりませんと信じています。努力していれば、その時ではなくても、神様がどこかで実現してくれます。うまくいっている地域はそのような地域だけです。さぼっているから成績が悪いので、ちょっと努力すると上がります。成績表を見るとよく分かりますが、マージンがすごく大きいので、上がるところはポンと上がります。一番伸びたのは天川村の洞川です。奈良は努力すれば必ず良くなると思います。</p> <p>その中で、梅本さんが言われた文化財についてですが、文化を観光、地域活性に結びつけようというのが大きなテーマです。県では教育委員会にしか文化財保存課がありませんので、県庁の組織に文化振興課を作って発展しました。この唐古・鍵遺跡も、市町村の教育委員会と市町村の首長との連結がうまくいっていないように思いました。文化財の保存でも、教育委員会が市町村に十分説明せず、「お金をそんなに使うならやめましょう」というような会話がほとんどだったと思います。</p> <p>そこで、2年前から教育委員会、首長が、文化財の保存活用をまちづくりと一緒にするなら、県の補助を倍増するということをしています。倍増といっても大したことはありませんが、文化財と市町村のまちづくりの意欲が結びつければ、県はプラスで補助するというアイデアを出したのです。その発想が、今度はまちづくり全般で、県と市町村が手を握ると県の補助を嵩上げするという発想に結びついています。文化と観光、地域振興を結びつけることは奈良の大きな軸だと思います。</p> <p>辰巳さんが言われた農業ですが、生産高という観点では低いですが、まだまだ奈良らしい農業というものがあると思います。奈良の農業は、輸出産業として、強く生きる道があるのではないのでしょうか。耕作放棄地率は高く、人が不足して、後継者の問題もあり、なかなか複雑な面があるように思います。この場所をどうしようという時に、国の言うことを聞くのではなく、総論的ですが、奈良の農業にこだわって頑張りたいと思います。</p> <p>それからもう1つ、「農業をする」と言って、奈良市の仕出し屋さんと結婚した女性がいるそうで、農業をしてもらって女性をゲットする作戦として、そのためには田んぼをタダでやってもいいというぐらいのことを言っていますが、女性が農業をしてくれるということはとても貴重なことです。</p> <p>麻生先生が言われたように、女性が農業だけでなく、加工食品のジャムを作ったり、レストランやオーベルジュをしたり、あるいは文化事業をそこでしたりするなど、新しい発展のあるビジネスモデルを作っていたらと思います。働き手、担い手のいいマッチングのルートができれば、場所と働き手のマッチングをビジネスモデルとして作り上げたいと思います。</p> <p>この地域はそのような要素が転がっていますので、このような場で詰めて、県と市町村で協定を結び、また皆さんと協働し、連携して投資をしていきたいと思っています。</p>